

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第1回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	平成27年6月2日（火）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時 から 午後4時 まで
開 催 場 所	中央公民館岩木館 大ホール（弘前市大字賀田一丁目18番地3）
座 長 の 氏 名	弘前大学教育担当理事・副学長 伊藤成治
出 席 者	<p>座長 伊藤 成治 委員 生島 美和 委員 関谷 道夫 委員 佐藤 文紀 委員 葛西 裕幸 委員 立石 眞樹 委員 工藤 周三 委員 相内 英之 委員 前田 一隆 委員 虻川 士 委員 高山 洋子 委員 大湯 恵津子 委員 三上 美知子 委員 野村 太郎 委員 今泉 昌一 委員 鶴谷 郁子 委員 高橋 雅人 委員 山谷 文子 委員 増田 幸雄 委員 九戸 眞樹 委員 三浦 テツ 委員 境 江利子 委員 工藤 雅弘 代理 橋本 広樹</p>
欠 席 者	<p>委員 河内 見地子 委員 瀧本 壽史 委員 田村 瑞穂 委員 福士 和孝 委員 西館 弘道 委員 梅村 博之 委員 濱野 麗 委員 笹 郁子</p>
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<p>教育長 佐々木 健 教育部長 柴田 幸博 学校教育推進監 櫛引 健 教育政策課長 鳴海 誠 学校企画課長 宇庭 芳宏 学務健康課長 後藤 千登世 学校指導課長 佐藤 忠浩 生涯学習課長 鈴木 卓治 中央公民館長 庄司 輝昭 弘前図書長 土谷 伸夫 文化財課長 三上 敏彦</p>
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員提案等に対する取組状況について ・ 「地域とともにある学校」について ・ いじめ問題対策連絡協議会について
会 議 結 果	<p>「委員提案等に対する取組状況について」では、「対応済み」となっているものの中にも、さらに検討を進めたり、ブラッシュアップしたりしていく旨の回答があると一層良かったのではないかと。また、本会議が市の施策にインパクトを与えて実施できるような形になることを期待する。という御意見をいただきました。</p>

	<p>「地域とともにある学校について」では、学校・家庭・地域が持つ役割をしっかりと果たすとともに、学校がのびのびと教育活動をする事ができるように、学校と地域の間を取り持つコーディネーターの配置や、学校の中に地域の人の居場所をつくつなど、弘前らしいコミュニティ・スクールを考えてほしい。という御意見をいただきました。</p>										
<p>会議資料の名称</p>	<p>○委員提案等及び取組状況（事前配布） ○コミュニティ・スクールについて（事前配布） ○いじめ防止対策推進法に定める組織</p>										
<p>会議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)</p>	<p>1. 開会 2. 座長挨拶 3. 委員紹介（異動等により変更になった方のみ） 4. 議事 ・委員提案等に対する取組状況について ・「地域とともにある学校」について ・いじめ問題対策連絡協議会について 5. 事務連絡 6. 教育長挨拶 7. 閉会</p> <p>【内容】（概要）</p> <p>2. 座長挨拶</p> <p>伊藤座長より、「平成25年度からこれまで4回の会議を開催してきたが、現委員の任期が7月17日をもって満了を迎えるため、現委員での会議は最後ということになる。今回は全体での話し合いということで皆様から十分な意見を伺いにくい状況が想定されるが、よろしくお願ひしたい。」という挨拶がありました。</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>人事異動等により新たに委員となった出席者を紹介しました。</p> <table data-bbox="555 1697 1316 1973"> <tr> <td>弘前市中学校長会会長</td> <td>葛西 裕幸 委員</td> </tr> <tr> <td>弘前市立公民館館長連絡協議会会長</td> <td>工藤 周三 委員</td> </tr> <tr> <td>弘前市議会経済・文教常任委員会委員長</td> <td>今泉 昌一 委員</td> </tr> <tr> <td>青森県教育庁中南教育事務所所長</td> <td>高橋 雅人 委員</td> </tr> <tr> <td>中南地域県民局地域健康福祉部子ども相談総室</td> <td>総室長 山谷 文子 委員</td> </tr> </table>	弘前市中学校長会会長	葛西 裕幸 委員	弘前市立公民館館長連絡協議会会長	工藤 周三 委員	弘前市議会経済・文教常任委員会委員長	今泉 昌一 委員	青森県教育庁中南教育事務所所長	高橋 雅人 委員	中南地域県民局地域健康福祉部子ども相談総室	総室長 山谷 文子 委員
弘前市中学校長会会長	葛西 裕幸 委員										
弘前市立公民館館長連絡協議会会長	工藤 周三 委員										
弘前市議会経済・文教常任委員会委員長	今泉 昌一 委員										
青森県教育庁中南教育事務所所長	高橋 雅人 委員										
中南地域県民局地域健康福祉部子ども相談総室	総室長 山谷 文子 委員										

4. 議事

○委員提案等に対する取組状況について

委員提案等の14項目について、取組状況の概要を事務局側から説明し、引き続き座長の進行のもと意見交換が行われました。

(座長)

確認も含めて意見等があれば発言をお願いしたい。

(委員)

項目13の子ども達の危険予知、危機管理については、すでに取り組みられている学校もあるということで、意見した甲斐があったと感じる。子ども達のまわりにはいろいろな危険がある。このことに対応できる子どもの育成、自主性、主体性を養ってほしいという思いで意見した。

(委員)

登下校指導を含めていろいろな指導をしている。特別に取り上げなくても、朝の会、帰り会、あるいは学活などにおいて十分に時間を取って指導している。

(座長)

項目4及び6の、「教育施策の中で大人の学びの部分が比較的少ない。今後の社会を担う人をどのようにつくるかについてどのように考えているか。」また、「世代をミックスした行事が少ないので、そのような機会を設けてほしい。」という意見に対し、すべて対応済みとなっているが、委員から意見が出るということは十分に伝わっていない面もあるのではないか。対応済みとした趣旨を知りたい。

(事務局)

地域課題あるいは現代的課題と密接に絡めながら多くの世代を対象者とし、巻き込んだ形で講座を作るように気をつけている。

各種イベントについては市ホームページや広報紙等での周知に努めている。また、地区公民館では公民館だよりにより周知をしている。努力をしているつもりではあるが、取組を知ってもらうための一層の努力が必要であることは感じている。

(委員)

地区公民館では、地区の文化祭を開催しており、様々な世代が集まるイベントとなっている。

(座長)

周知だけではなく、プログラムの魅力というのも重要である。魅力づくりは必要。特に大人の学びについては必要。

(座長)

学校の統廃合に関してはどうか

(委員)

小規模校にはメリットもあるがデメリットもある。地域によって考えなくてはいけないことがそれぞれある。そういう意味でも市内全域同じくくりで進めるのは難しいと思う。子どもが社会性を身につけるためにはある程度の規模がないと、長期的に見てマイナスの部分が強くなるのかなと思う。そう考えると、複式学級が無い人数で行かざるを得ないのではないかな。

(委員)

いくら学校が小規模化しようが、自分たちの地区はこのままではいけないという危機感が無く、自分たちの問題として考えないうちは腰も上がらない。小規模化に伴い教員の配置数が減ることで、安全管理や指導効果の問題などに関する課題が増える。小規模化に伴う結果を提示しながら統廃合の話を進めることはできるだろう。

(委員)

小学校から中学校に進学してもメンバーが無わっていない学校は活気がない。一方、複数の小学校から集まる中学校は活気があるように感じる。

(委員)

子どもが少なくなってきたことに伴い、統廃合のことも耳にするようになった。そのような中、岩木高校や中央高校定時制が無くなるという話が出てきたときに、保護者、地域住民からは、地域に学校が無いと地域が伸びないといった意見が出た。しかし、学校があったからといって、地域のみんなが学校活動に参加するかというところではない。例えば、地区にある学校の運動会に参加するかといえば、前述のような意見を言う人ほど参加してない。こういう問題が出たときだけ騒ぐのはそのような大人だけ。

(委員)

公民館活動が行われていることは知っているが、項目4の大人の学びへの取組とはそういった実践レベルではなく、教育施策の柱の中に入れていくことが必要であるという意味で発言した。計画や施策の中で、次世代の社会の担い手を順序立てて社会の一員として意識化していくためにはどうすればよいかを子どものレベルだけではなく、若者、中堅といったところで位置付けてほしい。

(座長)

横串を指すような何かが必要なのではないかな。学校教育・社会教育・家庭教育に境目が無い時代になっている。そういう意味で、横をつなぐ教育施策が実施されないと地域を含んだ一貫した取組になっていかないだろう。この会議が施策にインパクトを与えて実施できるような形になれば、委員に皆さんに集まってもらって議論いただいた甲斐があるだろう。

(委員)

座長が対応欄に違和感を感じたのは、やっているけどさらに検討が必要であるという項目が無いからではないか。すでにやっているものをどうテコ入れしていくかというものが一つあると委員の皆さんが納得できるのではないか。

○「地域とともにある学校」について

地域とともにある学校の実現に向けた仕組みとして、委員にはコミュニティ・スクールに関する資料を事前配布していました。事務局からの情報提供に続き、この仕組みについて意見交換をしていただきました。

(座長)

コミュニティ・スクールについては、自分の知る限りでは青森県内での導入実績はない。協議会組織はあるものの、学校運営にまで踏み込んだ組織は無いだろう。学校運営や教職員の任用に関して意見を述べるができるというのは、字面だけ見ると拒否感が強い仕組みなのかなと感じるが、もしも運用していくのであれば、どういう作り方が良いのか。

(委員)

学校では、学校評議員制度や地域との懇談会、民生委員との情報交換もあり、かなり地域とのやり取りがある。そのような中で、学校の経営方針に対する意見はなかなかないが、評議員からは評価してもらっているし、保護者も学校を評価しており、かなりの意見が学校には入ってきている。そういうことから、コミュニティ・スクールのように学校が気を遣わなくてはならない制度は良いものか。見えてこない部分である。学校、家庭、地域にはそれぞれの役割がある。そのタテの役割をしっかりと確認しながらヨコにつながるようにしなくてはいけない。今ある枠組みをとってしまってもすぐに地域に馴染むのだろうか。難しいのではないか。

(委員)

学校では公民館との連携より、教員だけでは対応しにくい教育活動について、地域人材の活用が図られている。学校経営に関して、建設的な意見をもらえるのであればいいが、対応上の問題が様々なところに派生していくリスクまでおかして導入する必要があるのか疑問である。

(委員)

コミュニティ・スクールについて深くは知らないが、学校を真ん中において、それに対して地域は何か一緒に出来ないかという考え方のように感じる。地域の教育力の中心にあるのは地域の中の機関や活動。その周りに学校があるもの。学校はその役割として学力の向上に努めるべき。地域の教育力の一翼は担うが、その中心になって何か意見をいうとか何かをして

もらうのは違うと思う。

(委員)

子どもを中心として学校と家庭の信頼関係が構築できていないとき、そこで不安になった親がしつけの果てまで押し付けてくるようになったり、不満をすぐに教育委員会に言って学校を脅かすような発言をしたりする。地域の役割には、親からの相談を受けたり、子ども達の学校での悩みを聞いたりを先生方に発信するというものが考えられる。こういった地域の人の居場所があればいいのかなと思う。

(座長)

地域を含めて話し合う場をだれが音頭を取って作るかという、今は学校や校長にお願いということになってしまっていると思う。

(委員)

コミュニティ・スクールは教員を評価するための制度なのではないかと感じる部分もあるが、コミュニティ・スクールがそのような評価する場所ではなく、学校や子どもを応援する場であればいいと思う。

(座長)

教育活動が委縮する方向に向かってはいけない。のびやかな方向に向かう制度であれば賛成であるが管理に見える。教育活動がのびやかな方向に行くようなシステムに弘前市独自のでも構わないので導入されていくのが望ましいと思う。若い世代が積極的に参加できるような仕組みがないかと思うが、今は学校が中心とならざるを得ない状況というのがあるのか。

(委員)

学校での学習がスムーズにいかない子どもの状況はよく学校から聞いているが、そういった子どもを学校だけで抱え込むのは困難である。また、そういった子どもの場合は、家庭でも子どもにうまく対応していないという場合が多い。そういう場合は、事情に詳しいそれぞれの機関は何ができるのか。学校になんでもぶら下がるのではなく、地域で関われる人が関わって、少しずつその家庭や子どもたちに働きかけることが必要である。

(委員)

コミュニティ・スクールに関する送付資料を見た時に、弘前市ではこれを導入するということなのかとその意図が気になった。自分でもいろいろな協議会に関わっているが、それぞれについて次々と制度ができていく。決定ありきで話し合いが進むことがある。もしかすると学校現場も同じなのかなと感じる。それぞれの組織においてもいろいろなものが降りてきて大変だが、こういったものと学校を調整するコーディネーターを配置すればよいのでは。

(座長)

様々なコーディネートについて、今は学校が引き受けている状況である

と思う。第三者的にコーディネートしてくれる地域コーディネーターが各中学校区に張り付くというのは以前にも話題にあがった。予算的な問題もあるかもしれない。

(委員)

コミュニティ・スクールは決して新しい制度ではない。自身も大館市に視察しに行ってきたことがある。その時、学校と地域の間を取り持つコーディネーターが配置されていた。その視察から大分経つが弘前市では導入されていないというのは、先程学校の立場というのも聞いて分かったような気もした。コミュニティ・スクールについては、皆さんの意見を聞くと弘前市ではまだ早いのではないかという結論が出た気がする。教育自体が委縮するような制度はいけないと思うし、コミュニティ・スクールのような制度を導入しなくても、いつでも学校の中に地域の人々の居場所があることで情報交換や課題解決につながるのではないかと感じた。

(委員)

市長部局のエリア担当職員について、地区の定例会に出席し、そこで出たものを持ち帰り関係部署で対応したりしている。

(委員)

エリア担当職員制度、今以上に地域の中心に入って活動できるような制度になればいいのではないか。

(委員)

コミュニティ・スクールのうち、主な役割として記載されているようなものは必要ないと思う。これでは誰も教員にならない。もっと先生方にはのびのびと教育してもらいたい。せめて、もっと弘前らしいコミュニティ・スクールを市教育委員会には考えてほしい。

(委員)

医療と福祉と教育が同じテーブルで話し合いができる場が必要。

○いじめ問題対策連絡協議会について

いじめ防止基本方針の策定及び、いじめ問題対策連絡協議会の設置について説明しました。中でも、いじめ問題対策連絡協議会については、本会議をもってその役割を果たしてもらいたい旨の説明をしました。具体的には、今後の市民会議において、いじめの未然防止について話し合いをしていただき、皆さんからいただいた意見、助言を今後の市の取組や市民とともに進める運動に活かしていきたいと考えている旨を説明しました。

(座長)

市民会議が法律上定められた協議会の役割も兼ねるということで、子どもたちの安心安全のために皆さんに一役買っていただきたいということ

なのでよろしくお願ひしたい。

2年間にわたり様々な提案をいただき、議論が集約された感がありますが、実際にどういった形で実現されていくのかが行政の手腕というところかと思う。市民の皆さんの熱い思いを受け止めて、行政の中に反映させてもらえれば座長務めた甲斐がある。また、委員を務めた甲斐があるのではないか。

5. 事務連絡

(児童相談所)

児童相談所の全国共通ダイヤルが7月1日から運用開始されること。また、児童相談所が庁舎移転することについて連絡した。

6. 教育長挨拶

(教育長)

先日、全国都市教育長協議会総会があり参加した。新教育委員会制度について、コミュニティ・スクールについて、小中一貫教育について、学校統廃合について、チーム学校について、教員の資質能力向上について、高等学校の教育改革について、新学習指導要領についての説明があった。やらなくてはいけないことがどんどん降りてきている。市教委としても10年、20年、30年先の弘前市の学校はどうあればよいか、学校教育、社会教育はどうあるべきか考え、形にしなくてはと思っている。そういうことから市民会議での貴重な意見を活かしていきたいと思っている。皆さんから意見をもらうことで、共通認識を持たれたことはよかったと思う。これまでの2年間、市民会議に多大な御理解と御協力をいただき心からお礼申し上げます。